大門町布目沢地区埋蔵文化財発掘調査報告

—県営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告—

1999年３月

大門町教育委員会

序

豊かな自然に囲まれた大門町には、南方に連なる丘陵地に縄文時代の遺跡が存在することが古くから知られていました。また、近年の発掘調査から平野部にも弥生時代を主とした、たくさんの遺跡が確認されています。これらの遺跡は郷土の歴史を知るうえで貴重な資料となるものです。

しかし、近年の大型開発の増加に伴い、かけがえのない文化遺産が次々に消滅しつつあります。

そういった情勢の中で、県営ほ場整備事業が実施されたわけですが、これはその土地改良工事の性格から、比較的遺跡の保存が講じやすいものであります。

この報告書は、事業に先立って試掘調査を行い、それから得た資料をまとめたものであります。

本書が地域の文化財保護の理解、啓蒙の一助になれば幸いです。

終わりに、調査にあたってご指導、ご協力を頂いた富山県埋蔵文化財センター、並びに遺跡の保存に当たって快く工事計画の変更を諒解して頂いた富山県農林水産部高岡農地林務事務所、大門町土地改良区、布目沢集落営農のみなさんに心より御礼申し上げます。

平成11年３月

大門町教育委員会
教育長　野　上　和　雄

例　言

1　本書は，富山県射水郡大門町布目沢地区における県営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告書である。

2　調査は，国庫補助金・県費補助金を受けて平成７年度から平成10年度までの４年間実施した。

3　調査期間・調査面積は『Ⅱ調査の概要　１調査の経過』に記す。

4　調査は，富山県埋蔵文化財センターの指導・協力を得て大門町教育委員会が実施した。調査担当者は『Ⅱ調査の概要　１調査の経過』に記す。

5　本書の編集・執筆は，大門町教育委員会　学芸員　尾野寺克実が行った。

6　調査から本書の作成に至るまで，下記の方々から有益な御教示を得た。記して感謝の意を表する。

宇野隆夫・久々忠義・前川要・宮田明（敬称略）

7　発掘調査の作業には（社）大門町シルバー人材センターの御協力を得た。

8　遺物整理，報告書作成作業の参加者は次のとおりである。

中谷正和・荒木慎也・高橋康生・八巻謙治・小栗由希代・山本教幸

9　凡　例

地　山

煤付着

目　次

Ⅰ　序章 …… 1
　1　遺跡の位置と環境 …… 1
　2　調査に至る経緯 …… 2
Ⅱ　調査の概要 …… 3
　1　調査の経過 …… 3
　2　調査の結果 …… 4
　　（1）布目沢Ⅱ遺跡 …… 4
　　（2）その他 …… 5
Ⅲ　まとめ …… 7
参考文献
写真図版

挿図目次

第１図　位置と周辺の遺跡 …… 1
第２図　分布調査で確認した遺跡 …… 2
第３図　試掘調査工程図 …… 3
第４図　布目沢Ⅱ遺跡基本層序 …… 4
第５図　布目沢Ⅱ遺跡出土遺物 …… 5
第６図　その他の遺物 …… 6
第７図　調査結果 …… 9

第１表　試掘調査年次表 …… 3
第２表　遺跡総括表 …… 8

Ⅰ 序　章

1　遺跡の位置と環境（第１図）

大門町は，富山県の中央北部，射水平野の南西端に位置し，東は小杉町，西・南は庄川を挟んで高岡市，北は大島町に接している。

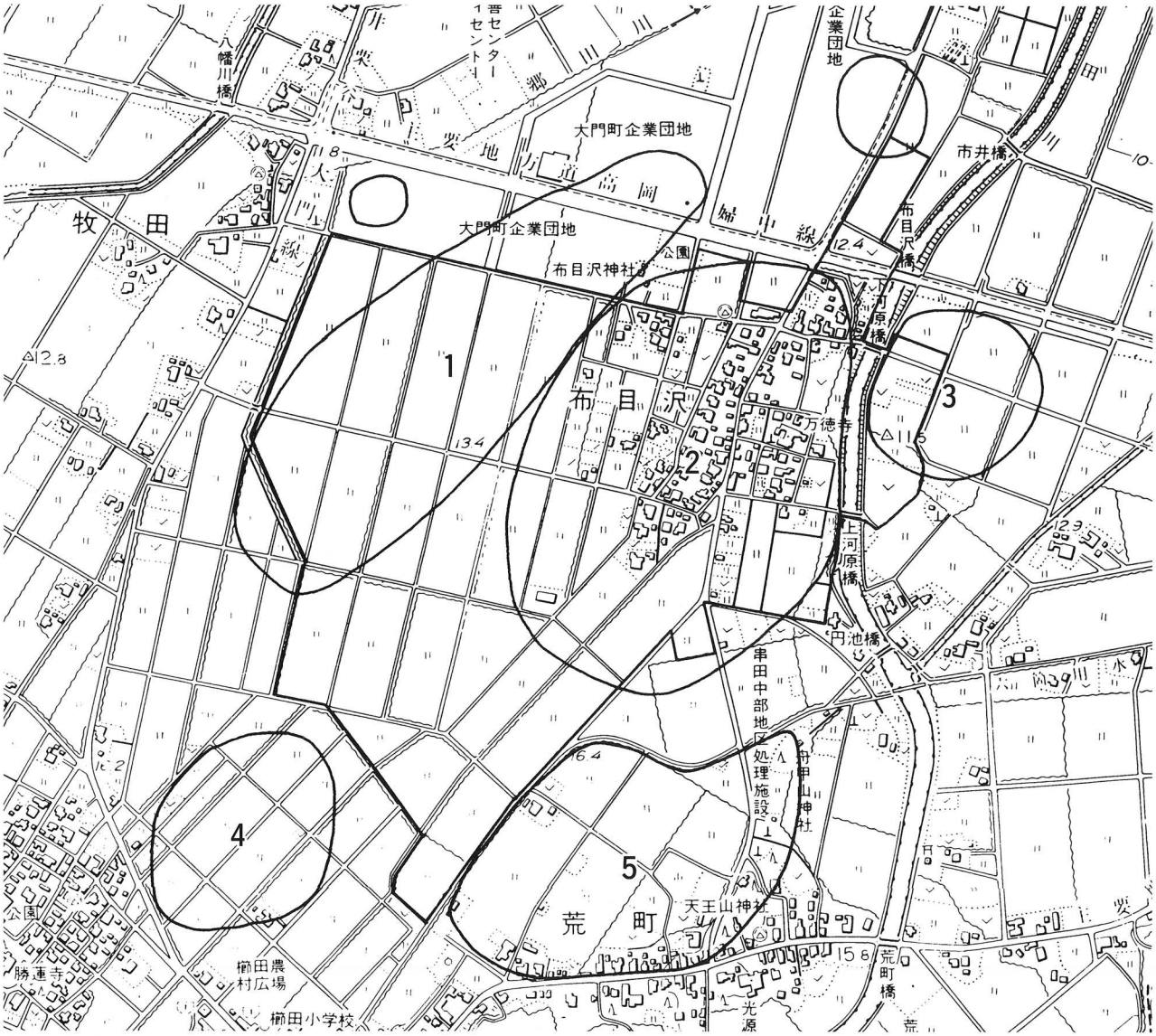
今回，試掘調査を行った布目沢地区は西に庄川，東に和田川が北流しており，それらに挟まれた扇状地上に立地している。調査対象地は標高　16.7m～10.4mの平担部で，南から北へ徐々に低くなっていく。

調査対象地の北には布目沢遺跡（中世・近世），布目沢東遺跡（縄文・古墳～近世），布目沢北遺跡（弥生），牧田遺跡（古墳・奈良・平安），小泉遺跡（縄文）等が近接する。東には県指定史跡大塚古墳が控え，南は「大沢山」と呼ばれる独立丘陵上に存在する国指定史跡串田新遺跡（縄文・古墳）を臨む。

第１図　位置と周辺の遺跡（Ｓ＝1／25,000）

2　調査に至る経緯（第２図）

富山県農林水産部高岡農地林務事務所は，大門町布目沢の地元住民の要望を受け，平成７年度～平成11年度までの５年間にわたって県営担い手育成基盤整備事業を行うこととなった。これは農業の大型機械導入による効率化を図るために，現況の小区画ほ場10枚程度を１区画に再編成するものである。工法は農道や用排水路等既存施設をそのまま利用し，現耕作土の均し（畦倒し）程度の土工を施す。事業計画面積が39haと広く，周知の遺跡が近接することから，平成７年４月14日に高岡農地林務事務所・町教育委員会が協議を行い，事業計画地とその周辺の分布調査を実施することとなった。調査は大門町教育委員会が平成７年4月17日～５月２日までの９日間実施し，その結果，新たに３ヵ所の埋蔵文化財包蔵地と周知の布目沢遺跡の広がりを確認した。そこで，富山県埋蔵文化財センターを含めた３者で再度協議を行い，工事が急がれる箇所から順に年次的に試掘調査を実施していくこととなった。



第２図　分布調査で確認した遺跡（Ｓ＝1／10,000）

１．布目沢遺跡　２．布目沢苗島遺跡　３．市井泓田遺跡　４．本村遺跡　５．荒町遺跡

Ⅱ　調査の概要

1　調査の経過（第１表・第３図）

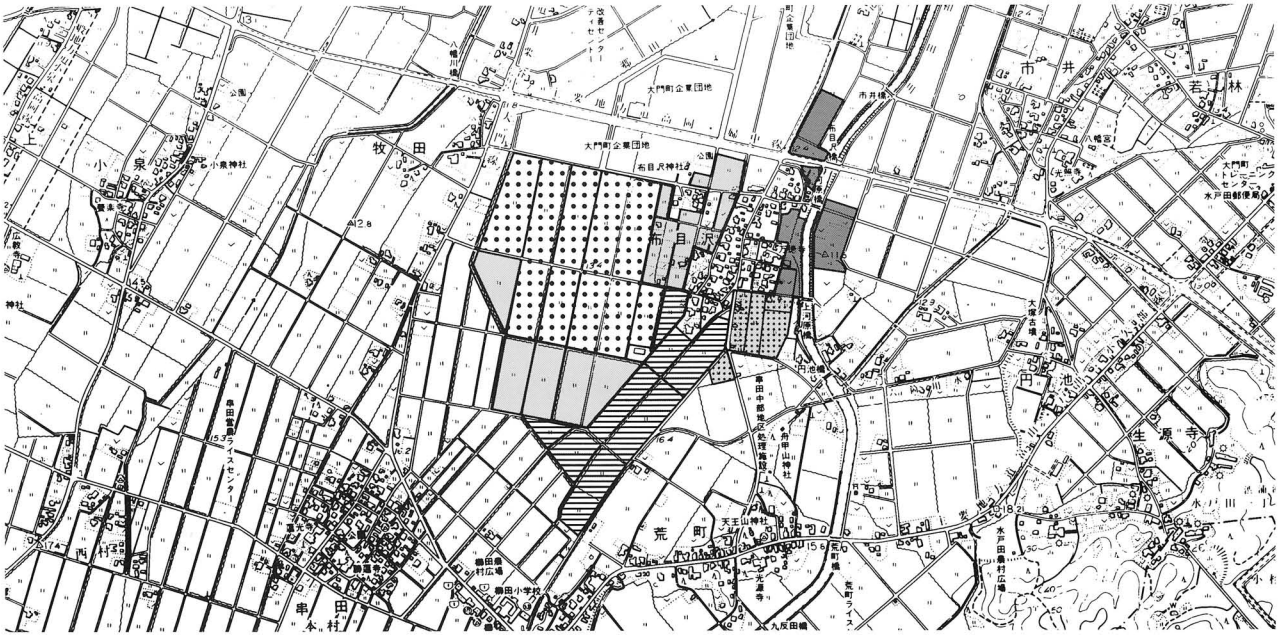
調査は，調査区全域でバックホウ及び人力によって幅約１mの試掘トレンチを設定し，遺構及び遺物の遺存状況を確認する方法を取った。

調査は４年間に渡り，計５回行った。５次にわたる調査面積合計は390,300㎡，発掘面積合計は7,871㎡である。各調査の期間，担当者など詳細は第１表に記す。

なお，試掘調査完了時にはその都度，高岡農地林務事務所，大門町土地改良区，大門町教育委員会の３者で協議を行い，工事によって地下の遺構・遺物に影響を及ぼす箇所については設計変更を求めた。その箇所については高岡農地林務事務所，大門町土地改良区，及び地元住民の協力によって盛土工法に切り替えられ，その保存に努めた。

調査次数	期　　間	調査担当者	調査面積	発掘面積	確認した遺跡	確認した遺跡の面積	凡例
第１次	H7.9.25～10.5 （７日間）	大門町教育委員会 学芸員　尾野寺　克実 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事　越前　慶祐	29,300㎡	618㎡			
第２次	H8.3.18～3.21 （２日間）	大門町教育委員会 学芸員　尾野寺　克実	21,000㎡	131㎡			
第３次	H8.10.25～11.22 （15日間）	大門町教育委員会 学芸員　尾野寺　克実 富山県埋蔵文化財センター 主任　安念　幹倫	82,000㎡	1,760㎡			
第４次	H9.11.25～12.15 （９日間）	大門町教育委員会 学芸員　尾野寺　克実 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事　高梨　清志	96,000㎡	2,180㎡	布目沢Ⅱ遺跡	26,520㎡	
第５次	H10.10.19～11.30 （21日間）	大門町教育委員会 学芸員　尾野寺　克実	162,000㎡	3,182㎡			

第１表　試掘調査年次表



第３図　試掘調査工程図（Ｓ＝1／20,000）

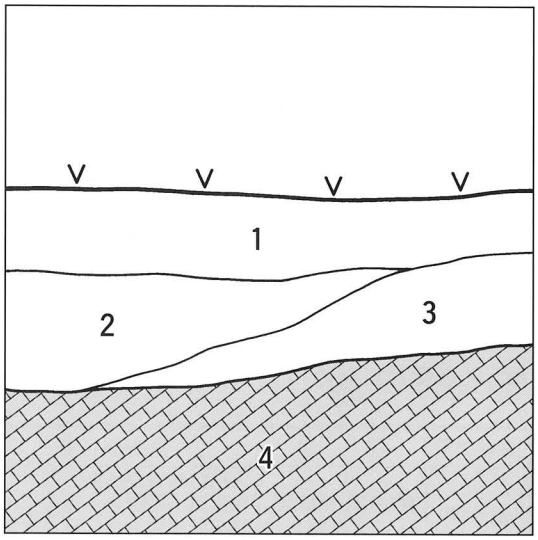
2　調査の結果

調査区全域で378箇所に試掘トレンチを設定した。調査では新たに１箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。

（１）布目沢Ⅱ遺跡（第４・５・７図）

a．層序

基本層序は１層灰褐色土，２層暗灰色粘質土，３層黒褐色粘質土，４層黄灰色・青灰色粘質土となる。１層は耕作土で層厚10～25cm。２層は床土で層厚０～45cm。３層は遺物包含層で層厚０～20cm。４層は地山で，遺構検出面となる。２層・３層は昭和39年に行われた土地改良工事の田面調整のため，遺存していない箇所が多い。そのため，１層直下に４層が堆積している箇所も所々で見えた。



第４図　布目沢Ⅱ遺跡基本層序

b．遺構

溝状遺構，穴，土坑，井戸を検出している。

穴は柱穴状になるもの，土坑では竪穴住居になる可能性があるものを数基確認している。第７図上，６T～23Tに集中して検出している。この区間には井戸と考えられるものが３基以上見られ，特に22Tは曲物を埋設しており，中から漆器椀が出土している。

遺跡内の地形は西へ向けて緩やかに上がる。遺跡東端では地山が小さく落ち込み，それより東からは遺構は確認できなかった。

c．遺物

弥生土器，土師質土器，須恵器，珠洲焼，中国製陶磁器，石製品が出土している。遺構内より出土した遺物は１～５・８・９・11である。

１は緑色凝灰岩製の石核である。重量は75ｇを計る。左右から打面作出を受けている。一部に擦痕が残る。

２～６は土師質土器である。２は口径17.5cmを測り，口縁部内外面にハケ調整を施す。弥生時代後期から古墳時代初頭に属する。３は口径10.5cmを測る。弥生時代後期と考えられる。４・５は鉢である。４は口径21.2cmを測り，内面にミガキ調整を施す。弥生時代後期から古墳時代初頭に属する。５は底部片で，底径4.2cmを測る。６は高杯の脚部片で，底径18.4cmを測り，外面にミガキ調整を施す。

７は須恵器甕の体部破片である。外面は12条／３cmの平行線叩きを施し，内面には同心円当て具痕が残る。

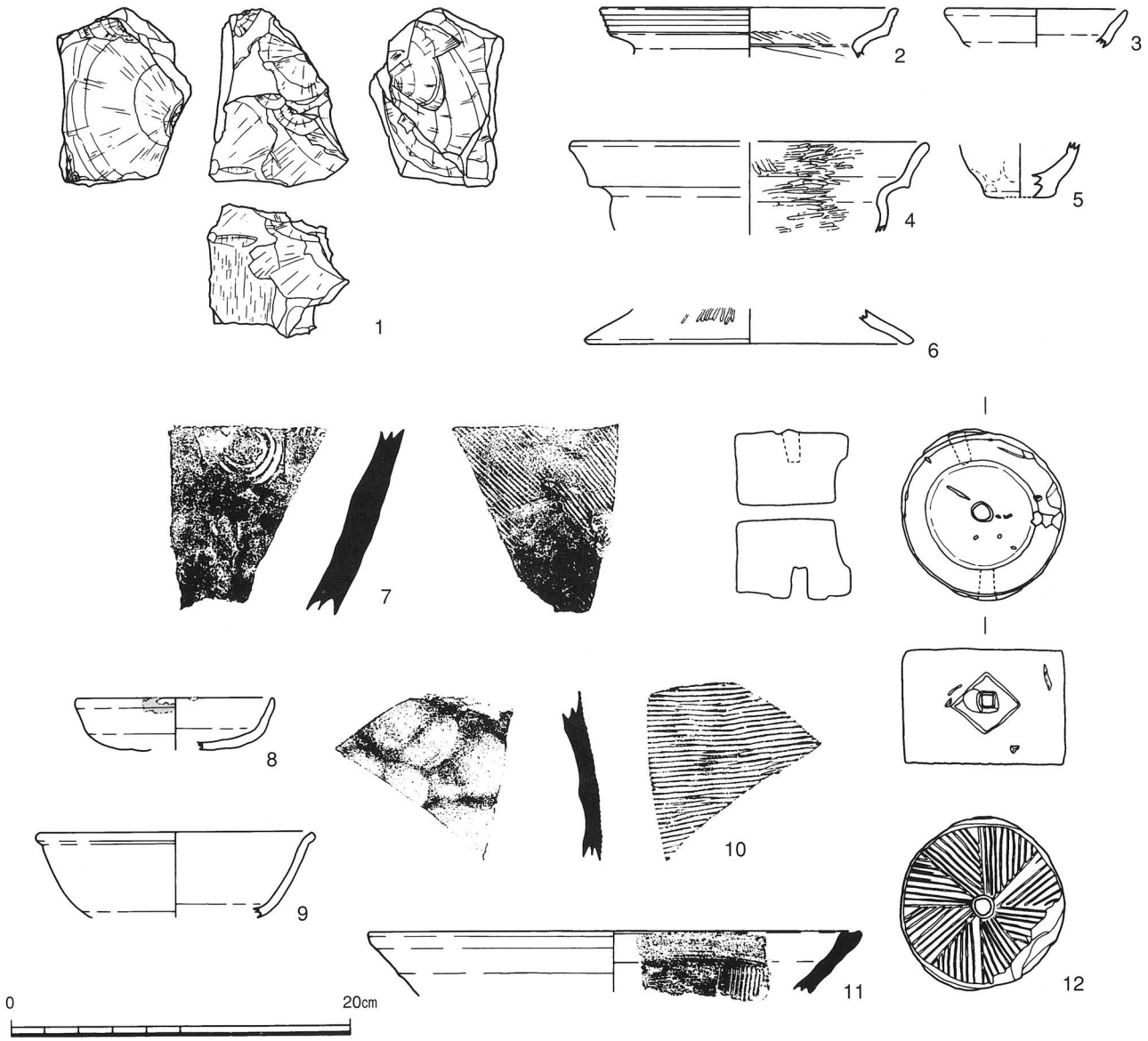
８は中世土師皿である。口径11.4cm，器高3.1cm，底径10.3cmを測る。９は青磁で，口径16.0cmを測る。大宰府編年ＤⅡ類に属し，15世紀前半と考えられる。10・11は珠洲焼である。10は壷もしくは甕の体部破片で，10条／３cmの叩きを施す。11はすり鉢で，口径29.0cmを測る。

12は茶臼の上臼である。側面に相対せずに存する２箇所の打ち込み孔周囲を一重の菱形で装飾し，摺り面の目のパターンは８分画で６～10本の副溝を持つ。石材は砂岩である。

d．小結

以上，布目沢Ⅱ遺跡について概観した。遺構内出土の遺物より，弥生時代後半～古墳時代初頭，室町期の２時期に存続した遺跡であることが窺える。生活に密着した遺物の出土がほとんどであることから，双方とも一般的な集落遺跡であろう。

また，昭和39年に行われた土地改良工事では20T付近で約26,000枚を数える大量の古銭が収められた完形



第５図　布目沢Ⅱ遺跡出土遺物（Ｓ＝1／4，1はＳ＝1／2，12はＳ＝1／8 ）

の越前甕が出土している。古銭は当時，5,000枚を抽出して調査した結果，開元通宝を始めとして宣徳通宝に至るまでの81種類を確認している。また，容器の越前甕は織田荘所産の16世紀に比定されるもので，体部上位に窯元の刻印を有する。

当初は布目沢遺跡の広がりの一部と考えられていたが，東・北東側には河川が曲がりくねって北流しており，遺構の検出が出来なかったことからこれを分割した。遺跡内においても，水がつきやすい環境にあったと考えられる。

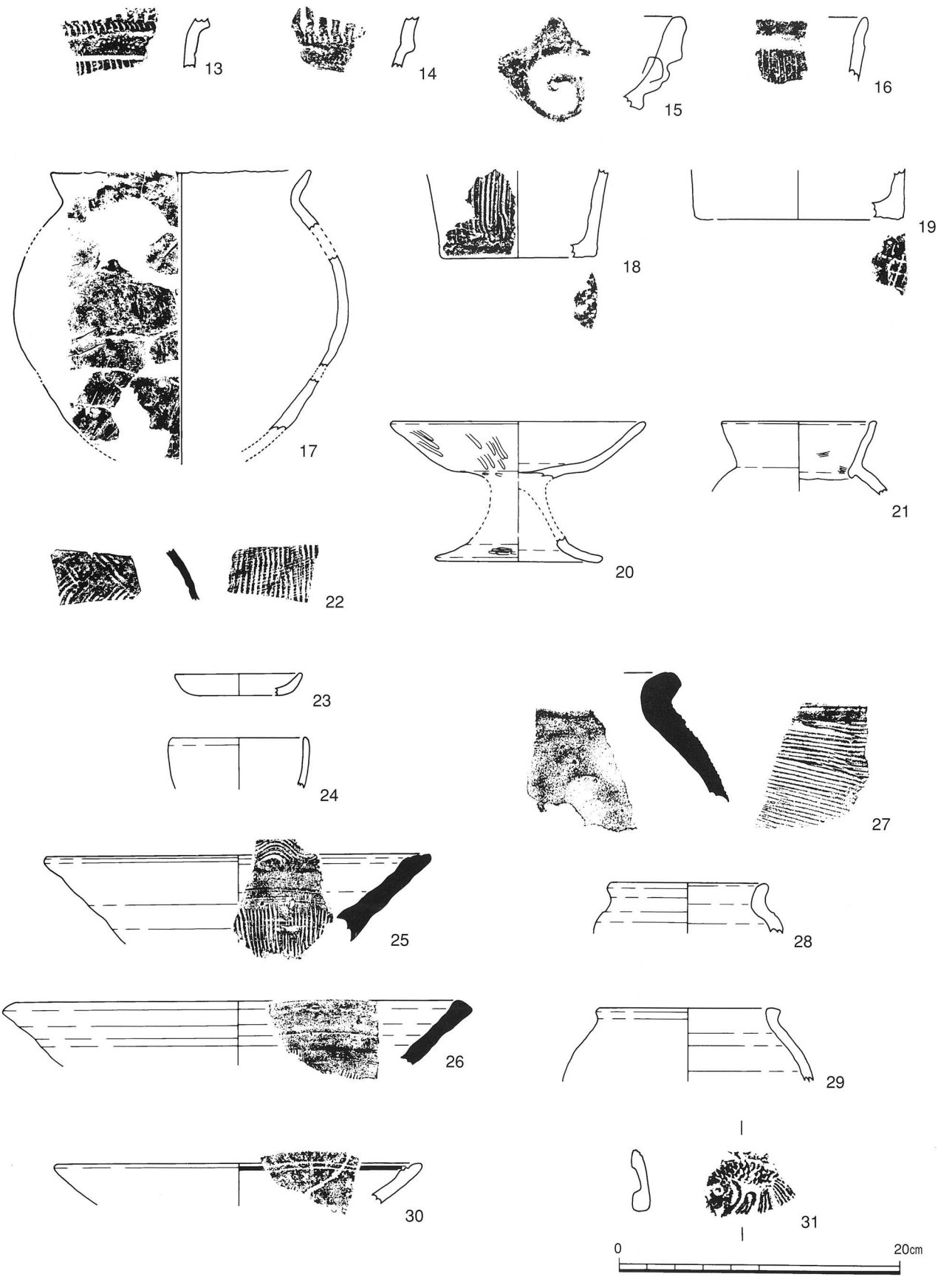
旧地形は西側に向けて緩やかに上がっていくことから，集落本体は調査区外西隣に推定される。

（２）その他（第６・７図）

調査対象地では布目沢Ⅱ遺跡以外には埋蔵文化財包蔵地は確認できなかったが，地形・出土遺物から若干知り得たこともあるのでここに記す。

ａ．層序

基本層序は１層耕作土，２層床土（一部盛土），３層黄灰色・青灰色粘質土（地山），４層青灰色砂土（地



第６図　その他の遺物（Ｓ＝1／4，31はＳ＝1／2）

山）となる。２層は昭和39年の土地改良工事の影響か，遺存しない部分があり，耕作土直下に３層が堆積する箇所が多く見られた。また，１層，もしくは２層の下に礫層が入る箇所が調査区全体にかなり多く見られた。礫層の下には水気を多く含む３層，もしくは４層が堆積する。地元住民から得た情報では旧の和田川が何本もの支流を伴って調査区一帯に流れていたということであるから，その名残であろう。

ｃ．遺物

調査区全域でまばらではあるが種々の時代のものが出土している。出土地点は耕作土，床土が主で旧河川内から出土したものも数点ある。以下に主要なものを紹介する。

13～19は縄文土器の深鉢である。13は口縁部に爪形文と沈線文を施す。中期に比定される。14は口縁部には縦に多条の太い沈線を有し，貝殻圧痕を残す。後期前葉と思われる。15は波状口縁に沈線による渦巻文を施す。後期前葉～晩期前葉であろう。16は沈線と条痕を施す。晩期と考えられる。17は粗製土器で，口径17.6cmを測り，羊歯状口縁を施し，体部外面に条痕を施す。晩期。18・19は底部片で，18は体部外面に条痕を施し，双方とも底部外面に網代圧痕を残す。

20・21は土師質土器である。20は高杯で，同一個体２破片の復元図である。口径17.7cm，底径11.5cmを測る。杯部，脚部外面にミガキ調整を施す。21は小型壷で，口径11cmを測り，口縁部内面にハケ目調整を施す。古墳時代初頭～前期のものである。

22は須恵器の甕の体部破片である。外面には９条／３cmの擬格子状叩きの後にカキ目を施し，内面には同心円当て具痕を残す。

23は中世土師皿である。非ロクロ成形で，口径９.0cm，底径6.0cm，器高1.6cmを測る。24は瀬戸焼の椀である。口径5.8cmを測る。25～27は珠洲焼である。25・26はすり鉢である。25は口径27.2cmを測り，口縁部には波状文を施す。26は口径33.2cmを測る。27は甕の口縁部で，体部外面には11条／３cmの叩きを施し，内面には当て具痕が残る。

28・29は越前焼の小壷である。双方とも口径11.0cmを測る。30は近世陶器の皿と思われる。口縁部内面に２条の沈線を施す。31は泥メンコと思われる。形状は鯉を模したものであろう。

Ⅳ　ま　と　め

ここで布目沢地内における埋蔵文化財包蔵範囲について若干検討を加えてまとめとしたい。

当初は布目沢遺跡・布目沢東遺跡・牧田遺跡の広がりが期待されたが，この調査では確認できなかった。

また，分布調査で新たに確認された４つの埋蔵文化財包蔵地の内，調査区内に範囲が広がっていた布目沢苗島遺跡と市井泓田遺跡についても遺構は確認できなかった。布目沢苗島遺跡については現在の集落下にその本体がある公算が強い。市井泓田遺跡には，その範囲は調査区外の東側までと思われる。

試掘調査で新たに確認した布目沢Ⅱ遺跡は，地形を概観した結果，その西端は一般地方道井栗谷・大門線付近まで及ぶものと思われる。

遺跡外でも縄文晩期～近世まで様々な遺物が出土している。耕作土内や旧河川内からの出土であるが，特に縄文晩期と弥生後期～古墳時代前期の遺物が目立つ。調査対象地外の荒町遺跡や本村遺跡からの流入の可能性として捉えたい。

布目沢遺跡をはじめ，今回調査を行った布目沢Ⅱ遺跡等，近辺の弥生時代後半～古墳時代前期の遺跡全てで緑色凝灰岩製の珠製品もしくは未製品が出土している。今回の試掘調査では，人為的に加工されたもので

はなく，決して質の高いものとも言えないが，河原と考えられる礫層に緑色凝灰岩の原石を確認している。旧和田川の流域から緑色凝灰岩が採取できたことを裏付ける資料である。

旧和田川は北流していくと神楽川と呼ばれ，新湊市の放生津潟に繋がる。近年，神楽川流域の遺跡について検討されており，その水運が古くから重要な交通手段であったとされている〔久々・林寺1994〕。旧和田川は調査対象地一帯では幾つもの支流を伴い，大きく蛇行しながら流れているらしく，線的な調査である試掘調査ではその流れを完全に把握するまでには至らなかった。第２表に挙げた遺跡は全てその流域に位置するものと考えられ，旧和田川が生活に密着した重要な水資源であったことが窺われる。

番号	遺跡名	時代	面積	備考
1	布目沢東遺跡	縄文・古墳～近世	19,200㎡	平成元・２年発掘調査
2	牧田遺跡	古墳・奈良・平安	8,640㎡	昭和55・58年試掘調査
3	布目沢遺跡	中世・近世	30,120㎡	平成２年発掘調査
4	布目沢Ⅱ遺跡	弥生後期～古墳初頭・中世	100,680㎡	緑色凝灰岩出土
5	布目沢苗島遺跡	奈良～近世	23,640㎡	今回調査では確認できず
6	市井泓田遺跡	中世・近世	46,440㎡	今回調査では確認できず
7	本村遺跡	縄文・古墳	63,000㎡	分布調査での確認
8	荒町遺跡	古墳・中世	136,080㎡	分布調査での確認

第２表　遺跡総括表結果

参考文献

石川県埋蔵文化財センター　1986　『漆町遺跡Ⅰ』

石川青木一彦・井上都・久々忠義・宗融子・多賀令史　1998　「中世の放生津について」　『大境　第19号』

久々忠義・林寺厳州　1994　「射水平野の遺跡－神楽川流域を探る－」　『大境　第16号』

県埋蔵文化財センター　1995　『谷内・杉谷遺跡群』

国立歴史民族博物館　1993　『日本出土の貿易陶磁—西日本編２—』

大門町教育委員会　1981　『大門町史』

大門町教育委員会　1990　『布目沢北遺跡発掘調査概要』

大門町教育委員会　1997　『大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告　—県営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告—』

富山県教育委員会　1982　『北陸自動車道遺跡調査報告　—上市町土器・石器編—』

富山県教育委員会　1991　『北陸自動車道遺跡調査報告　—朝日町編６—境Ａ遺跡土器編』

富山県教育委員会　1992　『北陸自動車道遺跡調査報告　—朝日町編７—境Ａ遺跡総括編』

富山県文化振興財団　1996　『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』

富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会　1991　『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告（１）
—布目沢東遺跡—　—布目沢遺跡—』

富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会　1992　『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告（２）
—布目沢北遺跡第３次調査—』

能登町教育委員会　1986　『真脇遺跡』

野々市町教育委員会　1983　『野々市町御経塚遺跡』

吉岡康暢　1991　『日本海域の土器・陶磁』　六興出版

第７図　調査結果（S＝1／6,000）

凡　例

試掘トレンチ

遺跡範囲

1

2

3

4

5

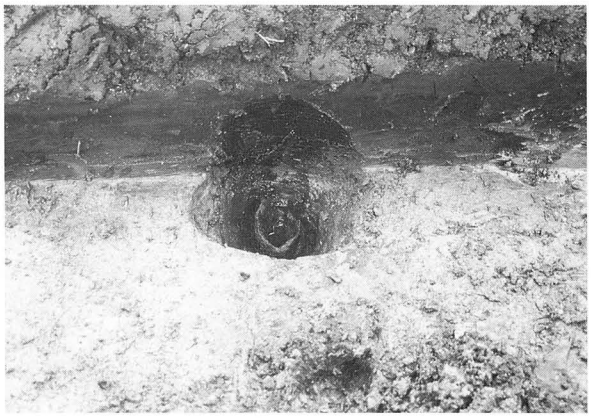
6

7

8

作業風景	作業風景
トレンチ全景	層　　序
トレンチ全景	層　　序
	トレンチ全景

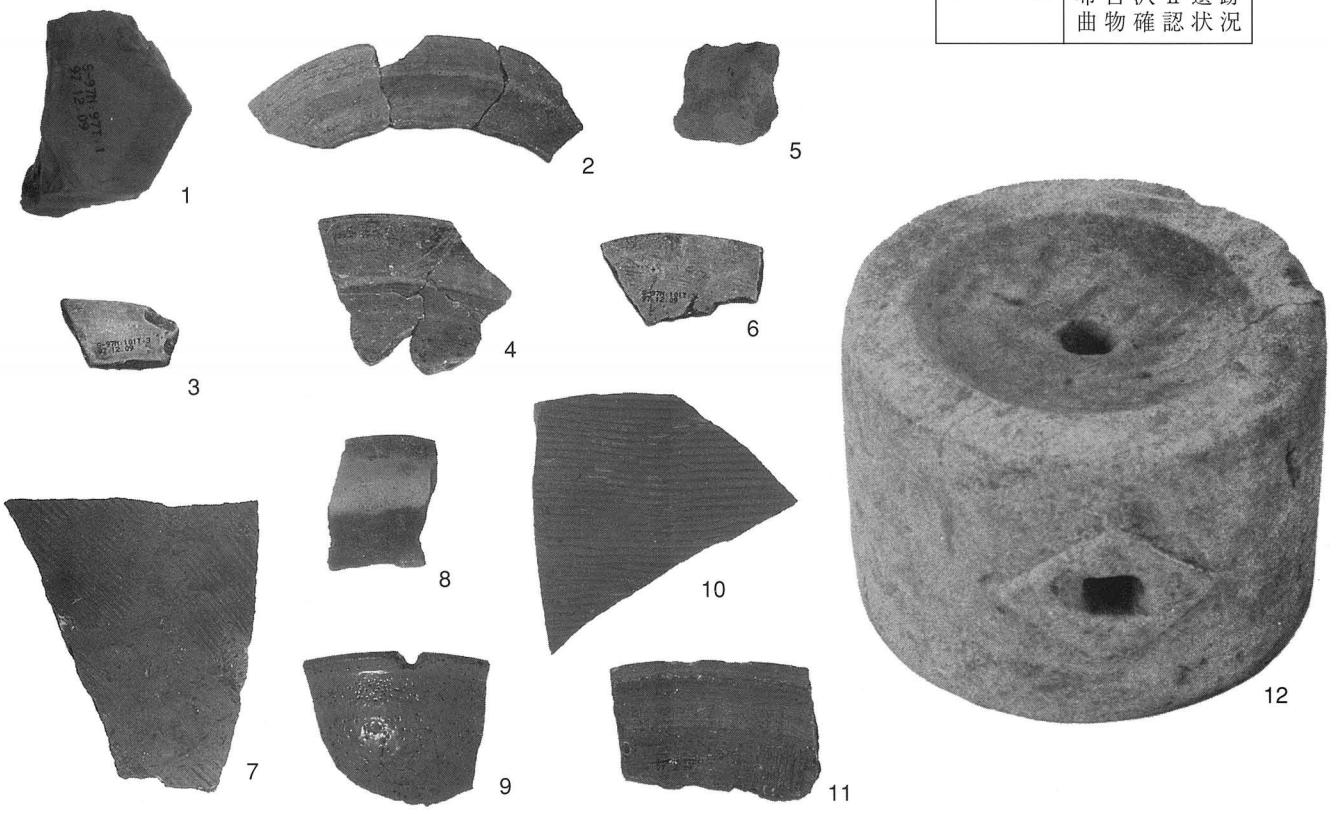
写真図版１



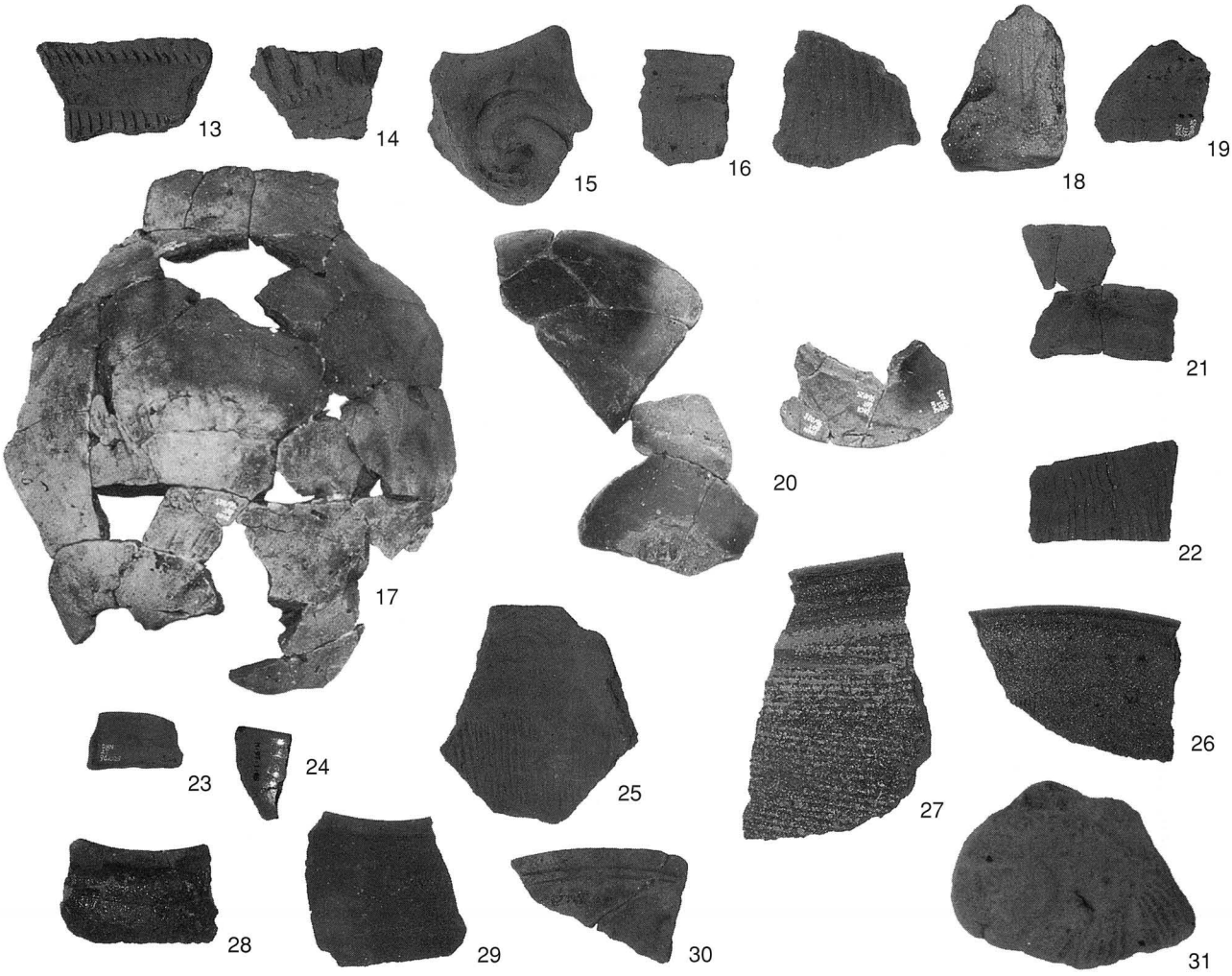
トレンチ全景

布目沢Ⅱ遺跡柱痕確認状況

布目沢Ⅱ遺跡曲物確認状況



写真図版２　布目沢Ⅱ遺跡の遺構遺物（遺物　S＝1／3，1は1／2）



遺物写真（S＝1／3，31は1／1）

参考：昭和39年の土地改良工事で出土した越前甕（S＝1／5，布目沢Ⅱ遺跡）

写真図版 3

報告書抄録

ふりがな	だいもんまちぬのめさわちくまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこく　けんえいほじょうせいびじぎょうにともなうしくつちょうさほうこく
書名	大門町布目沢地区埋蔵文化財発掘調査報告　－県営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告－
シリーズ名	大門町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	19
編著者名	尾野寺克実
編集機関	大門町教育委員会
所在地	〒939-0294　富山県射水郡大門町二口1081　TEL 0766－52－6964
発行年月日	1999年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査原因
ぬのめさわに 布目沢Ⅱ	だいもんまちぬのめさわ 大門町布目沢	163821	382074	36° 41′ 53″	137° 02′ 36″		県営ほ場整備事業に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
布目沢Ⅱ	集落	弥生後期・古墳初頭 中世	溝・土坑・井戸	弥生土器・土師質土器 珠洲焼・中国製陶磁器 石製品	

大門町埋蔵文化財調査報告　第19集

大門町布目沢地区埋蔵文化財発掘調査報告

県営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告

発行日　平成11年３月

発　行　大門町教育委員会

編　集　大門町教育委員会

印　刷　小間印刷株式会社